未来につながる「最後の社会貢献」

貴方の「思い」を
のこす遺贈へ

日本財団遺贈寄付サポートセンター

活動報告書・2020

日本財団
遺贈寄付
サポートセンター
THE NIPPON FOUNDATION
LEGACY GIFT SUPPORT CENTER

遺贈寄付サポートセンターからのご挨拶

コロナ禍の重苦しい状況が続く中、季節は夏を迎えようとしておりますが、皆様方には、お元気にお過ごしのこととお察し申し上げます。

日本財団遺贈寄付サポートセンターは、日本に遺贈の寄付文化を醸成することを目的に2016年4月に開設して以来、皆様の「未来への社会貢献」の実現のためにご相談を受けて参りました。ここに、昨年度の活動をまとめましたのでご覧いただきたく存じます。

遺贈は、あなたの「思い」を未来に繋ぐこと、そして生きた証を未来に遺すことです。未来への社会貢献をお考えでいらっしゃいましたら、どうぞご遠慮なくご相談くださいませ。スタッフ一同心を込めて承ります。

遺贈寄付サポートチーム チームリーダー

木下園子

2020年度もたくさんのご支援をいただきました

皆様の思いの詰まったご支援を頂きまして、誠にありがとうございました。日本財団では、いただいたご寄付にその方のお名前を冠して個別に管理しております。

●遺贈寄付…1億1691万2482円

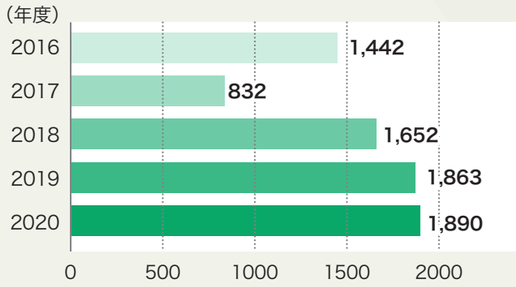
坂上征雄様　浦上ヨシエ様　髙木邦寛様　山田郷子様　黒澤泰子様

●相続財産からの寄付…3750万円

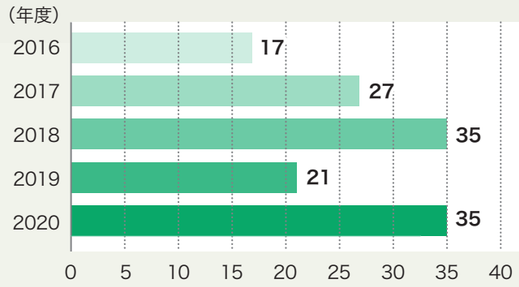
H様　みかん基金　鈴木かや様　M様

これまでの実績

問い合わせ件数



遺言書受領件数



遺贈寄付

合計 **11**億**4798**万**3033**円

相続財産からの寄付

合計 **1**億**3680**万円

事業実施報告

レポート1 レポート2 ミャンマーにおける遊具寄贈事業 …… P.4～5

レポート3 ミャンマーシャン州における 衛生環境改善事業 …… P.6

レポート4 埼玉県さいたま市における 子ども第三の居場所整備 …… P.7

レポート5 高校生向けオンラインスクールの事業 …… P.8

レポート6 日本財団 夢の奨学金 …… P.9

レポート7 コロナ禍で居場所を失った 若年女性に対する支援 …… P.10

アンケート調査、オンラインセミナー開催、第五回 ゆいごん大賞 「ゆいごん川柳」～五・七・五の中に見る、大切なもの～ …… P.11～12

レポート1 レポート2

ミャンマーにおける遊具寄贈事業

本事業には、元吉以都子様と元吉史昭様の姉弟からそれぞれに寄せられた相続財産寄付と、山田郷子様からの遺贈寄付を活用させていただきました。

支援先：れんげ国際ボランティア会
事業費総額：27,857米ドル
（支援金額3,342,840円）

実施団体名：セダナー（Saetanar）
事業費総額：28,395米ドル
（支援金額3,407,400円）

事業内容

心身の健全な発達を促す教育環境が整備されていないミャンマーに、子どもの学校に対する認識を向上させることを目指し遊具を設置しました。

子どもたちの健康習慣、教育環境の向上のために。

日本財団はミャンマーで1976年からさまざまな支援を続けています。タイ、中国、ラオスの3か国と国境を接するシャン州では2002年から、デルタ地域のエーヤワディ地方では13年から学校建設と運営の支援を始めています。

今回、この2つの地域の小中学校に、滑り台やブランコ、シーソーなど6種類のスポーツ遊具を贈りました。子どもたちの健康習慣・教育環境の向上に寄与することが目的です。以前、別の地域で遊具を寄贈したところ、生徒が遊具で遊ぶために早く登校するようになった、健康になったという声が寄せられましたので、今回もいい影響が出ると考えています。

この事業には、元吉以都子様と元吉史昭様の姉弟からそれぞれに寄せられた相続財産寄付と、山田郷子様からの遺贈寄付を活用させていただきました。元吉さんの亡くなったお父様が小児科医だったことから、海外の学校もしくは医療の支援に活用してほしいという希望がお二人から寄せられました。

シャン州では41校に設置を終え、21年度にあと30校を予定しています。エーヤワディでは15校に贈りました。都会と違いますから、遊具が設置されると、まるで遊園地ができたようだと、子どもばかりか村の大人たちも大変、喜んでいます。設置にあたり、各村で遊具設置委員会を組織し、設置の手伝いのほか、メンテナンスや安全管理について学んでもらいました。自分たちの財産として大切に、安全に楽しんでもらいたいからです。

設置した学校からは「身体的にも精神面でも健康でいてもらい、毎日の学習をよりよいものにしてもらいたいと思っています。また、クラスメートと遊ぶことで、お互いを助け合うチームワークも学んでほしいと期待しています」という声が寄せられています。

実はエーヤワディでは当初、寄贈は13校の予定でしたが、金銭を一部負担してもいいからぜひ設置をと手を挙げた学校がありましたので1校を追加。さらに、設置を請け負った地元の会社から協力の申し出があり、無償で1校を追加できました。それだけ意義ある活動と地元で受け止められたのです。

シャン州の遊具には「Dr.Motoyoshi」からの寄贈と表示したプレートが付けられています。遊具を中心に、多くの笑い声が校庭に響いています。

レポート 3

ミャンマーシャン州における 衛生環境改善事業

本事業には、M様の相続財産寄付を活用させていただきました。

実施団体名：セダナー（Saetanar）　事業費総額：27,000米ドル（支援金額：3,375,000円）

事業内容

子どもたちの衛生環境と教育環境の向上を目指し、手洗い及びトイレ施設の不十分なミャンマーのシャン州地域の学校に水関連施設を寄贈しています。

太平洋戦争時の償いとして。

学校にトイレがあり、男女別に分かれている――。そんな、日本人なら当たり前だと思っていることが実は大切な意味を持つことをご存じでしょうか？

ミャンマーでは、トイレや手洗い場が整備されていない学校が少なくありません。でも、生徒数あたりのトイレの数が多いほど、途上国では出席率が高くなります。特に、思春期を迎えた女子生徒に影響が大きいといわれます。

今回、ミャンマーのシャン州にある8校に、手洗い設備とトイレを寄贈しました。それぞれに女子用個室3室と男子用2室、2つの手洗い設備です。

この事業は、遺贈寄付が原資です。太平洋戦争当時、お父様がビルマ戦線に陸軍として従軍していたM様からの寄付です。お父様はビルマで水に苦労したそうです。同時に、現地の皆さんに迷惑をかけたという思いが強く、遺産をミャンマーで水に関することに活用してくれるよう希望されたそうです。まさに遺志を活かした本事業に、きっとどこかでお喜びになっていらっしゃることでしょう。

レポート 4

埼玉県さいたま市における 子ども第三の居場所整備

本事業には、水野久榮様とI様からの遺贈寄付と、K様からの相続財産寄付を活用させていただきました。

実施団体名：特定非営利活動法人 さいたまユースサポートネット　事業費総額（支援金額）：89,700,000円

事業内容

生活困窮家庭の子どもたちに、「子ども第三の居場所」を提供するために2016年から「子どもの貧困対策プロジェクト」を推進しています。人や社会と関わる力、自己肯定感、学習習慣など自立する力を伸ばし、子どもたちの未来を支援します。

子どもたちに、遊び場、学び場、生活の保障を。

「普通の家のカタチとなんか違う？」「壁に絵を描きたい！」――。子どもたちが声を上げるのは、外面が赤や黄、青などに塗られたコンテナを組み合わせた「子ども第三の居場所みぬま拠点」。通称「あそぼっくすみぬま」です。さいたま市見沼区地域の子どもたちのために、家でも学校でもない「子ども第三の居場所」として2021年3月にオープンしました。

運営するのはNPO法人「さいたまユースサポートネット」。日本財団が整備費を助成しました。財団は全国に100カ所の「子ども第三の居場所」を開く事業を展開中で、ここは初めて遺贈寄付を原資としました。水野久榮様とI様からの遺贈と、K様ご遺族からの寄付を活用しています。

小学1～3年生対象の、放課後の遊びや学びの場ですが、地域のお年寄りなどが寄ってくれることも期待しています。奥行き3mのウッドデッキは地域の「縁側」です。運営団体は、遺産を託した方たちの「思い」が子どもたちにも伝わるような工夫をしたいと考えています。

レポート 5

高校生向け オンラインスクールの事業

本事業には、水野久榮様の遺贈寄付を活用させていただきました。

事業費総額（支援金額）：32,230,000円

事業内容

新型コロナウイルス対策の一斉休校により教育の遅れや格差が生じる不安に対して、これを教育機会の転換点と捉え、高校生のネットワークを広げるオンラインスクールを提供。社会人イノベーターや、一流アスリートを講師に迎え、年間300以上の授業を実施しました。

こんな時代だからこそ、子どもたちに自分の将来を考える場所を。

オンラインだからこそできる体験や仲間づくりができる場「みらいラボ」を高校生に提供しました。コロナ禍収束後の新たな社会を切り開くことのできる人材育成が目的です。子どもへの支援を希望された、水野久榮様からの遺贈寄付を使わせていただきました。

ラボの柱は3つ。一つは、アスリートや起業家など学校では学べない社会人の経験をオンラインで語ってもらうライブ授業と動画です。ラグビー元日本代表・五郎丸歩さんらの「授業」は300回を超え、延べ約16万人が視聴しました。

二つ目は、自身の過去を振り返って大切にしている価値観などをみつめ、自分がやりたいことを考えてもらうための参加型の講義「スタプロ」です。専門家の指導の下、約300人が参加しました。

三つ目は、自分の「やりたいこと」を実現するため、ラボ参加者同士で仲間を募って行動に移す「チャレグラ」で、少なくとも87件が形になりました。たとえば、インターネットを使った寄付集めなどを学ぶ会や、ラボ参加者同士の交流会などです。

レポート 6

日本財団 夢の奨学金

本事業には、浦上ヨシヱ様、坂上征雄様、鈴木かや様、髙木邦寛様からの遺贈寄付と、荒川久爾子様、H様からの相続財産寄付、そしてスワン基金を活用させていただきました。

事業費総額（支援金額）：163,568,000円

事業内容

2016年4月から実施している、給付型奨学金事業制度です。社会的養護で暮らした若者たちの進学に対する入学金・授業料・生活費・住居費等を補助、全ての奨学生にソーシャルワーカーが寄り添うことで、自立を支援します。

若者の未来が、不当に閉ざされることのないように。

社会的養護で暮らした経験のある若者の高等教育への進学率は全体よりも低く、中退率も高いという現実があります。経済的理由やサポートする大人が身近にいないことがその要因として挙げられます。

そこで、専門学校や大学の入学金、卒業までの授業料全額、生活費などの給付だけでなく、ソーシャルワーカーが就職までをサポートして孤立を防ぐのが本事業の目的です。2020年度は7人の方々からの寄付が原資でした。

事業は16年から始まり、47人（20年12月時点）が在籍。第5期生となる20年度は、新たに13人が奨学生となり、21年度は10人を予定しています。社会人でも利用できるのも特徴で、実際に利用もあります。

ある奨学生は「お金の心配をしなくていいという安心感に加えて、ソーシャルワーカーさんの存在にも助けられています。物件探しや引越し先の保証人についても親身になって相談に乗っていただきました」と語ります。

若者が不当に未来を閉ざされることのないよう、遺贈寄付が役立てられています。

レポート 7

コロナ禍で居場所を失った若年女性に対する支援

本事業には、水野久榮様とI様からの遺贈寄付と、相続財産寄付のみかん基金を活用させていただきました。

実施団体名：(一社)Colabo　事業費総額(支援金額)：41,260,000円

事業内容

社会的孤立や経済的困窮のために性被害や性的搾取等に遭いながら、自ら支援の窓口に足を運ぶことができない、中高生を中心とした若年女性を支える相談窓口を設置し支援の手を差し伸べています。

孤立・困窮した若年女性に安心を届ける。

コロナ禍で孤立・困窮して居場所を失った若い女性が多くいます。そんな女性たちを支援する活動に緊急助成しました。子どもへの支援を願った水野久榮様ほかの遺贈を活かしています。

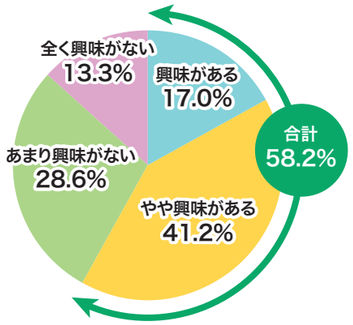
対象としたのは一般社団法人「Colabo」。性被害や虐待などにあっても行政や警察などに足を運ぶことができない、中高生を中心とした若い女性を支援する団体です。そうした女性を早期発見するために繁華街での声かけ活動のほか、シェルター運営などをしています。

コロナ禍でColaboへの相談は急増。2020年度、1200人以上に4千回以上の支援をしました。19年度は相談者数591人でした。助成によって職員を新採用し、対応を強化。具体的には、SNSなどでの相談に緊急対応するための窓口を開き、緊急保護や児童相談所・病院などへの同行を始めています。同時に、新宿・歌舞伎町に10代女性向けの相談スペースを開きました。支援事業を通じて政策提言にもつなげます。苦しむ女性たちへの公助が充実すれば、助成は大きな二次的効果を生み出すことになります。

アンケート調査

遺贈意識調査

あなたは、”終活”について興味がありますか。



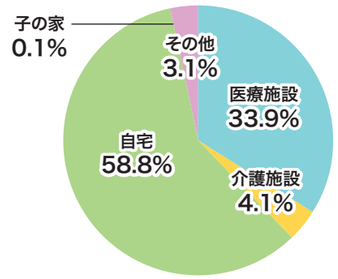
60歳～79歳までの男女2,000人を対象(2020年11月27日～11月28日実施)

調査では、58.2パーセントが終活に興味があると回答しており、すでに遺言書を作成している人が遺言書を書いてよかったと思うこととして最も多かったのは「気持ちの整理になった」で、全体の44.8パーセントを占めました。

調査結果の詳細は、右記QRコードからご覧ください。

人生の最期の迎え方に関する全国意識調査

あなたは、死期が迫っているとわかったときに、人生の最期をどこで迎えたいですか。



67歳～81歳までの男女558人を対象(2020年11月27日～30日実施)

人生の最期を迎えたい場所として、58.8% が「自宅」、次いで33.9%が「医療施設」と回答。その理由は、「自分らしくいられる」「住み慣れているから」などがあげられました。

調査結果の詳細は、右記QRコードからご覧ください。

オンラインセミナー開催

コロナ禍において、各地を訪問してのセミナーが開催できなくなったため、2020年8月にオンラインでセミナーを開催しました。行政書士佐山和弘先生の遺言書セミナー(ダイジェスト版)を配信しました。現在は遺贈寄付サポートセンターウェブサイト(URL:https://izo-kifu.jp/)の動画集で、引き続きご覧いただけます。

第五回 ゆいごん大賞

「ゆいごん川柳」
～五・七・五の中に見る、大切なもの～

日本財団では、とかく暗いイメージを持たれがちな遺言書を気楽に捉えていただきたいと、2016年遺贈寄付サポートセンター開設時から、ゆいごん川柳の募集を行っています。今年度は、落語家桂ひな太郎氏、遺言セミナーでご登壇いただいた相続専門行政書士佐山和弘氏にも選考委員としてご協力いただきました。また、入賞作品は、東名阪の書店でしおりとして配布いたしました。

2021年度もぜひご応募ください。

大賞
介護した　嫁も立派な　相続人
風信子さん（60歳）

入賞
コロナ禍で　遺言までも　オンライン
岳司さん(76歳)

入賞
書いとけと　コロナ背を押す　遺言書
しんちゃんさん（75歳）

入賞
遺言は　争族予防　ワクチンだ
あっちゃんさん（70歳）

佳作
きっかけは　コロナ・台風・大地震
ガイアさん（61歳）

佳作
使い切れ　遺産は世のため　人のため
ならのしかたろうさん（55歳）

佳作
20000日　歩んだ妻へ　感謝状
逆ペリカンさん（38歳）

佳作
タイトルは　遺言じゃなく　感謝状
さっぱりさん（76歳）

佳作
常日頃　口に出さない　文字を書き
小次郎さん（67歳）

遺贈寄付サポートセンター賞
寄付をした　父の遺影に　キスをする
さごじょうさん（38歳）

体制

担当常務　笹川 順平
ドネーション事業部部長　橋本 朋幸
遺贈寄付サポートセンター事務局
チームリーダー　木下 園子
相談員（五十音順）
青木 伸夫（2021年3月退職）
浅見 政江（2021年3月退職）
佐々木 秀仁（2021年6月着任）
佐々木 祐子（2021年4月着任）
佐藤 恵子
中野 芙奏

顧問

弁護士　鈴木 大輔氏
（東京リベルテ法律事務所所属）

執筆協力

星野 哲氏（立教大学社会デザイン研究所研究員）

編集後記

コロナ禍により、日常に多くの変化がもたらされましたが、「備えあれば憂いなし」は、ご相談いただいた皆様のお気持ちそのものではなかったかと思います。これからもそれぞれの方々のお気持ちに寄り添い、ご安心をお届けできるように努めてまいります。

お問合せ先

0120-331-531（通話料無料）
9:00～17:00（月～金／土日祝日を除く）

日本財団 遺贈寄付サポートセンター
107-8404 東京都港区赤坂1-2-2
URL:https://izo-kifu.jp/